

産地情勢 (2023.1.13)

ブラジル産とうもろこし

受粉期に入りリオグランドスル州は乾燥気候の影響を受け、今後の天候次第で少なくとも単収が1-2割減少する見通しである。(12月15日)

ブラジル国家食糧供給公社は2021/22年産の生産見通しを117.2百万トン(前年87百万トン+35%)に先月より0.5百万トン増加した。しかし、南部の主産地で乾燥気候が予報されているため、今後生産量見通しは下方修正されると考えられる。(12月10日)

夏作の作付けが95%進捗(平年92%)したが、その2割を占めるリオグランドスル州の乾燥気候の成長への影響が心配になっている。(12月8日)

クロープカレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)		8-9月	11-12月	2-5月	22%	主に国内飼料需要向
サリナ・コーン (冬作)		1-3月上旬	4月	6-8月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

作付けが順調で96%(昨年95%)進捗した。北部と中部の天候は良好に推移しているが、南部はまだ乾燥が続いており、単収にマイナスの影響が生じる可能性がある。(12月14日)

ブラジル国家食糧供給公社は2021/22年産の生産見通しを142.8百万トン(前年137百万トン)に0.8百万トン増加した。(12月10日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	9月-12月初め	1月	1月-4月

アルゼンチン産とうもろこし

生産量見通しは百万トン下がり52百万トンとなった。作付けが60%進捗したが過去5年度もっとも遅いペースである。(平年70%)(12月21日)

夏作は受粉期の天候がラニーニャ現象で高温乾燥になる可能性があるので多くの農家は夏作より冬作の作付けを増やす意向。冬作の割合は55~60%。(12月21日)

肥料価格が高騰しており、投入量が減少すれば単収も下がる可能性がある。(11月16日)
 アメリカ海洋大気庁は、ラニーニャ現象が今冬に発生する確率を 87%と発表した。ラニーニャ現象はブラジル北部に多雨、南部とアルゼンチンに乾燥気候をもたらす傾向がある。
 (10月14日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

アルゼンチン産大豆

作付けが 87%進捗した。(平年 95%) 早魃で生産量見通しは 43 百万トンに減少したが、現在の天候が改善しなければ 4 千万トン以下に減少する可能性がある。(1月11日)
 アルゼンチンの大豆には 33%の輸出関税がかかるため、作付面積は過去 15 年で最低となる見通し。(11月1日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクropp カレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (1月12日)

とうもろこし

(百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	346.0	358.5	383.9
ブラジル (3-2月)	102.0	87.0	115.0
アルゼンチン (〃)	51.0	50.5	54.5

米国は 2021/22 年度の収穫面積の増加で生産量が 1.3 百万トン増加。

単収が史上最高の 177bu/acre、生産量が史上 2 番目の 152 億 bu。

輸出需要の減少をエタノール需要の増加が上回ったが、期末在庫率は 10.4%に改善した。

ブラジルの 2021/22 年度の実産量が 3 百万トン下方修正された。

大豆

(百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	96.7	114.8	120.7
ブラジル (2-1月)	128.5	138.0	139.0
アルゼンチン (4-3月)	48.8	46.2	46.5

米国は 2021/22 年度の単収の 0.2bu 増加で生産量が 0.3 百万トン増加。

単収が史上 2 番目の 51.4bu/acre、生産量は史上最高の 44.4 億 bu。

期末在庫率は 8.03%に改善した。

ブラジルの 2021/22 年度が生産量が 5 百万トン、アルゼンチンが 3 百万トン下方修正された。

*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA)